



羅針盤

発行:サイクルーズ株式会社
 編集:サイクルーズ株式会社 大森オフィス
 東京都品川区南大井6-26-3
 大森ベルポートD館 8F
 電話: 03-6410-8797
 URL: <https://www.cyclers.co.jp/>

Market Forecasts by Y. san -6月-

鉄スクラップ

5月は指標となる東京製鉄宇都宮工場特級価格は40,500円/トンからスタート。他の地区は動きがありました。宇都宮は28日現在40,500円/トンと変わらず。6月に関しては輸出価格の低迷や、建設現場の工事が相変わらずの人手不足で遅れていることから下がると思われます。

銅

5月はLME 9,000ドル/トン台、国内銅建値1,420,000円/トンスタートし、円安の影響もあり、一時1,470,000円/トンまで上昇しましたが、28日現在LME9,600ドル/トン台、国内銅建値1,440,000円/トンで落ち着きました。6月は米国の対中貿易問題があり不明ですが横ばいでしょう。

5月予測の自己評価

鉄スクラップ;○ 銅;x アルミ;○

アルミ

アルミはLME2,400ドル/トン台からスタートし、28日現在、2,470ドル/トン台とやや上がりましたが大きな変化はありませんでした。6月は米国の関税問題による影響で不安定なところはありますが横ばいでしょう。

産業廃棄物

リチウムイオンが原因の産廃処分場火災が絶えません。もう事業者への分別期待は難しい状況です。とにかく土間選別と開梱選別を強化しないと防げません。その人員は必要であり、適正価格を事業者へ要提示です。搬入量が減少しているからと言って処分費の値下げだけは止めましょう。自殺行為です。

Topics

計量の歴史 (1) (計量の始まり)

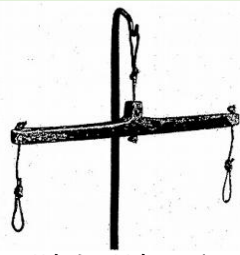
計量の歴史についての豆知識を、東京都計量検定所の資料を参考と本号と合わせて2回に亘っての掲載でご紹介してまいります。

廃棄物処理業者に限らず、「物」の売買に際して「重さや長さ等」を「計る」こと、即ち「計量」は、今も昔もとても重要な役割を果たしております。

「はかる」(計量)という行為の最初は「時間」だったと考えられています。太古の時代、日の出・日の入りで「1日」を、月の満ち欠けで「1か月」を、季節の移り変わりで「1年」をというように、私たちの祖先には時間の概念が自然と芽生え、狩猟や農耕を始めるようになると、効率的に行うためには狩猟時期・時間帯や種まき時期・収穫時期などが重要だということに気づき、時間の概念をより強く意識するようになりました。そこで、目で見てわかる太陽の位置や月の形などの身近な自然現象を利用して時間を「はかる」工夫を始めたと考えられています。

その後、人類は簡単な道具を作り始めるようになると、それを使って狩猟や農耕を始め、簡単な住居の建築、物々交換による交易などで、生活を豊かにして文明を発展させていきました。その過程で、例えば狩りの道具や建物を作るために、簡単な「ものさし」を作って「長さ」をはかり始め、農耕や物々交換が始まると「重さ」を「ます」のようにして穀物等の「体積」をはかるようになりました。そして、狩り、農耕や物々交換により安定した豊かな生活が実現すると、集団の中で力を持った「権力者」が生まれ、貴金属や宝石、香料などの贅沢ぜいたく品を求めるようになりました。これら少量で高価な品物を正しく取引するためには、重さ(質量)を使うことが合理的と考え、身近にあって比較的大きさが均一だった小麦、きびや豆などの穀物を「分銅」(基準)にして単純な構造の「天びん」を使って重さの計量を始めたのです。

「天秤(てんびん)」は、古代エジプトでは紀元前5000年頃には使われていたといわれています。現存する最古の天びんは、右図(写真)のエジプトのナカダで発見されたもので、紀元前3000年頃のもので推定されています。赤褐色の石灰岩で作られた天びんのさおは長さが8.509cmで、読取限度は65mgでした。宝石や貴金属の計量に使われていたことが伺われます。



現存する最古の天秤

このようにして、度・量・衡(長さ・体積・重さ)の計量が始まり、これらの計量を行うことにより、現在に至る人類の進歩の基盤が構築されたのです。その後、科学技術が急速に発展する近世を迎えるまでは、時間・度・量・衡の計量単位があれば日常の用は足りていました。そしてこれらの単位だけが、国家体制などの維持のために、世界中の地域毎に権力者や国家によって公的に管理されていたのです。

日本でも同様で、約150年前の江戸時代までの計量単位には時間と度量衡だけが定められ、これだけでほぼ日常生活の用が足りていましたが、明治以降の近世になると文明開化による科学や産業の発展とともに計量する対象が増え、温度、圧力、電力などの計量単位が使われるようになり、現在では、より多くの種類の計量単位が日常的に使われています。

掲載する字数の関係で、江戸時代以前の日本の計量制度については、次回での紹介とさせていただきます。

Series

社会人人生を振り返りながら2



トライシクル株式会社 小林 聡資

お疲れ様です、小林です。私の社会人としてのこれまでは、商社で始まり、数年の経験を経て転職。次は請負システムエンジニアとして防衛省を担当し貴重な体験もいたしました。

今回は、その後将来性と給与面から転職したO商会での営業についてのお話をさせていただきます。

入社当時、上場はしていたもののまだまだ営業会社色が強く、厳しいミーティングが毎日のように、各部署で行われていました。覚悟はしていたものの1か月ほどで、その厳しいミーティングが始まると、なんという会社に入ってしまったのか、転職するのではなかったと後悔が続きました。しかし、3社目の会社という事もあり、ここで辞めたら社会人として成長はないと崖っぷちの思いで「石の上にも3年」、3年は続けてみると決めました。

私は、製造業の設計者が使うCADソフトウェア販売をメインに行う部隊に配属されておりました。当時、2次元CADはすでに普及しており、3次元は自動車や家電系の業界などの一部に浸透し始め、3次元CADをいろいろ業種展開している時代でした。その3次元CADのメリットを顧客へ提案し販売する担当です。前回お話をしました通り新人の私は既存顧客を持たされず、O商会と全く取引のない新規の製造業にテレアポを続けておりました。CADとパソコンでset150万ぐらいするCADソフトを企業に売るというのは、今日の明日では成果が出るはずもなく、厳しい毎日でした。しかし1か月に1,000件ほどのテレアポをするとアポイントも取れるようになり、ちょっとしたものは売れたりしておりました。そのような日々の中で2か月位しましたら、ようやく3次元CAD1setを売ることが出来ました。この時は本当に嬉しく、今までの厳しいミーティングを忘れて喜んだことを昨日のように覚えております...

その後も数を重ねると新規のお客様に売れ、その営業攻略した自分に満足し喜び、売れない時は落ち込むという日々を過ごしておりました。そのような自己中心的な営業を続けていながらも、「3次元CADの導入によって会社の業績が上がった」、「製品開発でとても役に立った」、「製品トラブルの解消につながった」などお客様から感謝のお言葉を頂き、さらには業務改善の相談を頂くようになりはじめ、その体験が自身のモチベーションに繋がっていきました。厳しい中でも、お客様から頂く感謝の言葉はとても良いエネルギーになり、20年近くやれてきたと思います。

前職では活動は裏切らないという言葉がありました。やり切ると得るのはたくさんあります。私も人生折り返しのタイミングとなっておりますが、このような事を書きながら、初心を忘れずにやり切る精神で、今後も挑んで行きたいと思っております。

次回は、6月1日に富士ヒルクライムという自転車イベントに参加をしますので、そのお話をさせて頂ければと思っております。では又...

